

日本観光ホスピタリティ教育学会機関誌 執筆要項

『観光ホスピタリティ教育(Annals of Tourism and Hospitality Education)』に掲載する「投稿原稿」は以下の要領で作成するものとする。

1. 投稿原稿の作成

- ・ 「論文」「研究ノート」「教育実践報告」を執筆・投稿しようとする者は、編集規定に定める文字数、投稿規定に定める記載項目を遵守して作成しなくてはならない。

2. タイトル

- ・ 和文、英文のタイトルを必ず記載する。

3. 和文要約

- ・ 「論文」「研究ノート」の本文の前に記載する（「教育実践報告」は記載しなくてもよい）。
- ・ 文字数は和文 600 字以内とする。

4. キーワード

- ・ 「論文」「研究ノート」の本文の前に記載する（「教育実践報告」は記載しなくてもよい）。
- ・ 邦語・英語各々、4～6語程度記載する。

5. 目次

- ・ 本文の前に記載する。
- ・ 章および節のレベルの見出しを記載する。

6. 本文（図表を含む）

- ・ 英文・ローマ字・洋数字は、半角で書く。
- ・ 用字・用語は、常用漢字・現代仮名づかいによるものとする。
- ・ 文体は「・・・である。」調とする。
- ・ 見出しの表記は、次のように行う。
 - 章 1.
 - 節 (1)
 - 項 1)
- ・ 事項列挙をする場合は、次のように行う。
 - ① ○○○○○○○○○○○○○○○○○
 - ② ○○○○○○○○○○○○○○○○○
- ・ 図表は図と表それぞれについて順に番号をうち、本文中に挿入箇所を指示すること。

7. 注および参考文献

- ・ 「論文」「研究ノート」の本文の後に、注、参考文献の順にまとめて記載する（「教育実践報告」は記載しなくてもよい）。
- ・ 注と文献リストを別にする。
- ・ 注は、本文中の該当箇所の右肩に上付き文で順に1)と番号をうつ。
- ・ 参考文献の本文、注等における挙示は、著者名（発行年：ページ数）、または、（著者名発行年：ページ数）とする。

- ・ 参照文献は、著者名、発行年、題名、出版社の順に記述すること。欧文の書名はイタリック体にするか、または下線を引くこと。

例

Urry, J. 1990 *The Tourist Gaze: Leisure and Travel in Contemporary Societies*, Sage.
(=1995 加太宏邦訳『観光のまなざし—現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版局.)

前田勇 1995 『観光とサービスの心理学—観光行動学序説』学文社.

前田勇 1996 「日本・韓国間の国際観光交流の推移と展望」, 前田勇『現代観光学の展開—観光行動・文化観光・国際観光交流』, 169-182.

Urry, J. 1992 "The Tourist Gaze and the Environment," *Theory, Culture and Society*, 9: 1-26.

前田勇 1990 「観光関係人材育成の現状と課題」『月刊 観光』290: 3-14.

8. 英文要約

- ・ 「論文」「研究ノート」の文末に記載する（「教育実践報告」は記載しなくてもよい）。
- ・ 「論文」は300ワード以内、「研究ノート」は200ワード以内とする。

(付則) この規定は、平成17年1月22日から施行する。

(付則2) この規定は、平成17年3月12日に一部改訂し、施行する。

(付則3) この規定は、平成18年2月4日に一部改訂し、施行する。

(付則4) この規定は、平成26年11月22日に一部改訂し、施行する。

この規定の変更は、日本観光ホスピタリティ教育学会理事会の議を経ることを要する。